図南の翼 飛翔させて

04年度専修大学卒業式・学位記授与式が3月22日、東京・ 千代田区の日本武道館で行われ、学部卒業生と大学院の修了生計4457人が社会へ新たな一歩を踏み出した。
学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、日高義博学長は式辞の中で「本学で学んだことに自信と誇りを持ち、パワフルにハートフルに活躍を」と激励。これを受け、初めて卒業生を送り出したネットワーク情報学部の鍛治恵子さんと、岩田弘尚さん（経営学研究科博士後期課程）が卒業生、修了生を代表してそれぞれ謝辞を述べた。

（卒業式の模様は、【特集】卒業式・学位授与式・祝う会と、フォトギャラリー【こちら】をご覧下さい。）

図南の翼（となんのつばさ）：中国・戦国時代の思想家、荘周の書「荘子・逍遥遊 編」第一、巨大な魚が大鳳と化し、幾千里の翼を広げて幾万里の上空に舞い上がり、南海の天池を目指す寓話からの語。「怒して飛べば其の翼垂天の雲の若し。・・・今将に南を図らんとす」。転じて大志を抱いて雄飛する。大事業を計画する意。【揮毫は仲川恭司文学部教授】

日高 義博学長式辞（要旨）

本日、学士号を取得し た4313名の学部卒業生の皆さん、修士ないし博士号を取得した144名の大学院修了の皆さん、専修大学を代表し、 心からお祝いを申しあげます。式典に参列されているご家族の皆様に対してもお慶び申しあげますと共に、本学にご支援・ご協力いただいたことに深くお礼を申しあげます。
本年度から、専修大学の総合力を現す一つの場として、学部の卒業式と大学院の学位記授与式を取りまとめ、日本武道館において合一して式典を挙行することに致しました。また今回は、2001年に設置しましたネットワーク情報学部が初めて卒業生を送り

出す記念すべき式典でもあります。本学における大学教育の幅広さと力強さを体感しつつ、母校専修大学の学窓を飛び立ってください。
この数年、従来の枠組みでは捉えきれない社会を震撼する事件、予想を越える自然の猛威を目の当たりにする機会が多くなりました。人とのつながりにおいても、また環境とのつながりにおいても、予想を越える歪みに直面することが多くなりました。先行きが不透明で、しかも価値の多元化した社会においてこそ、人間の根源的あり方を見つめ直し、自然の中で人間は生かされていることを発想の原点にしなければならないと切に感じます。個々人がしっかりとした人生の羅針盤を持ち、しかも共に生きていくことを考えなければならない時代なのです。

卒業生諸君、4年間の学生生活を振り返り、今どのような実感を持っているでしょうか。勉学に励み学問の楽しさを味わった人、クラブ活動に熱中し仲間と苦楽を共にしながら目標を達成する喜びを味わった人、人生に悩み苦学の連続だった人、さまざまでしょう。いずれの場合であれ、自分の殻を破り、自己の可能性を求め、自分の生き方を考える絶好の場となったはずです。人生の羅針盤を見いだし得た諸君も多いと思います。大学院にあっては、日夜、学問探求に没頭し、学問の深さを実感すると共に「学は人なり」という言葉の重さを感じたと思います。研究論文を書き上げるに際しては、命を削るほどの厳しさに直面したはずですし、思考の限界を体感したことでしょう。
専修大学において学んだ時間は、長い人生から見ると、一瞬の出来事ですが、そこには諸君の人生に光りを放つ多くのものが凝縮されており、近い将来、大輪の花を咲かせる原動力になりうるものと確信しております。
皆さんは、創立125年の節目に卒業します。諸君に対して期待したいことは、創立者たちの建学の精神に思いを致し、専修大学で学んだことに自信と誇りを持ち、社会の各層においてパワフルに活躍し、母校の発展に寄与してもらいたいということです。

明治維新後の日本の国のかたちを視野に入れ、日本の社会の屋台骨を支える有為な人材を市民レベルから育成しようとした創立者たちの思いが花開くか否かは、卒業生一人ひとりの生き様にかかっています。専修大学の歴史を刻んでいくのは、学窓を飛び立っていく卒業生自身なのです。
卒業後は、専修人として、各方面においてパワフルかつハートフルに活躍し、母校の発展に光りを放たれんことを期待し、式辞といたします。

出牛 正芳理事長祝辞

学位記授与式に参列して、学士、修士、ならびに博士の学位を得られた皆さん、誠におめでとうございます。ご参列のご家族の皆さま方もさぞやお慶びのことと拝察申しあげます。本当におめでとうございます。

学位記授与式、すなわち卒業式のことを英語ではカメンスメント（Commencement）といい、「開始・始め」という意味もあります。「卒業」という言葉は、「決められた課程を学び終えること」「一つの事業を完了すること」、また「思想の発展、技術の習得などで、ある段階を完了すること」を意味します。したがって卒業式は、一つのことが終わり、次の業の始まり、すなわち、新しい人生のスタートを祝福するお祝いの儀式といえると思います。
皆さんの中には、より高度な研究に励む人、また企業あるいは家業を継ぎ、未知の世界に歩みを進める人もおられるでありましょう。皆さんそれぞれどの道を歩もうとも、あらん限りの力を発揮して着実に前進してください。「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず」「千里の道も一歩から」という言葉のとおり、どんな遠い道でも一歩一歩歩んでいけば、必ず目標に到達するはずです。急いては事を仕損じます。決して急いてはなりません。
これから歩む21世紀は、決して平坦な道ばかりではありません。その成長の過程には、幾多の越えねばならない苦難の峠があります。「辛抱は浮世をわたる力杖、常に離すな、ビジネスの道」という言葉のように「辛

抱＝忍耐」することが難問に遭遇したときの支えとなります。辛抱を力杖として、自己のペースを守り、あせらず、じっくりと問題の所在を明らかにしながら、解決策を講じてください。苦難を乗り越えるごとに、自分では分かりませんが、必ず人間は成長していくものです。皆さんは、日々成長し続け、進歩していく、21世紀を背負って立つ若草なのです。

21世紀の担い手である皆さんは、人間と自然が共生出来るような社会にする責任をも担っております。そのためにも、人間を人間たらしめる美しいもの、崇高なものに感動する心を持ち続けてください。そして、明日の生命のために住みよい社会を残せるよう努力してほしいと思います。志を高く持ち、自己啓発に努めるならば、本学で学んだ学問と教養は必ず生きたものとなり、現実の社会生活を実りあるものにしてくれるでしょう。入学以来、専修大学のキャンパスで得た友人と、生涯変わらぬ友情を大切にし、その友情を心の糧として、新しい時代にチャレンジしていくことを心より願っております。皆さんの今後のご活躍を祈念し、お祝いの辞といたします。

【ニュース専修2005年3月号1面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.